



消防職員特別教育 水難救助科〔第32期〕

6月25日（火）から7月12日（金）まで、県内11消防本部（局）から推薦を受けた24人の消防職員が水難救助科第32期生として本校へ入校し、教育訓練を受けました。

本県における昨年夏期の水難事故は22件発生し、東京、神奈川、岐阜に続いて第4位と高い発生件数となっています。広範囲に渡る海岸と一級河川を含む多くの河川を有する本県にとって、水難救助業務は大変重要な任務の一つです。

本課程では、静岡県消防学校で長年潜水技術を御指導いただいているダイビングベルの鈴木講師を中心に座学及び実技での基礎知識技術の習得や各種実科訓練と併せ、海洋や河川での校外訓練や海上保安庁の潜水土による訓練を実施しました。



（担当教官コメント）

水難救助科第32期の教育課程は、約3週間のほとんどの時間が屋外での実科訓練となります。入校生は水難救助隊としてキャリアの豊富な者から、これから水難救助に携わっていく者など様々なレベルの中で、クリアしなければならぬ課題も多く、連日プールサイドは40度を優に超える猛暑の中で技術・体力ともにとっても厳しい訓練が続き、心配になる部分もありました。しかし、皆で連日、課外時間を使い、第32期全体で課題をクリアするために、苦手な課題を得意な学生が指導するなど、励まし、技術を教え合う姿が見られ、改めて同期の大切さ、情熱をもって技術の習得に励む姿に、胸熱くなるものがありました。

座学や実科訓練では、潜水や水難救助のプロフェッショナルである講師陣から技術を一つでも吸収しようと積極的に質問する姿や訓練に取り組む姿が見られました。また、事例研究では各所属の取り組みについて活発に意見交換が行われ、こうした学生の姿勢は、とても頼もしくもあり、私自身にとっても刺激となる時間でした。修了生には、厳しい訓練をともに乗り換えたバディや同期との出会いを大切に今後お互いを高め合い水難救助への対応力を磨き続けていくことを期待しています。

最後に水難救助科第32期生を御指導をいただきました講師の方々をはじめ、御協力いただきました全ての方へ心より感謝申し上げます。

教務課主査 鈴木 雅人（富士山南東消防本部から派遣）

消防学校プールでの訓練 (ダイビングベル)



清水海上保安部による訓練



富士川でのナチュラルアクションによる訓練



海洋での訓練 (三保・用宗)



初任科第95期第2回野外訓練

活動方針 全員で任務完遂

全体目標 一歩

第2回野外訓練は、初任教育の一環として、南海トラフ巨大地震の発生を想定して実施するものです。学校訓練施設における各種訓練及び校外での夜間強歩訓練を行い、消防職員として必要である強靱な体力・精神力を養成するとともに、消防の任務である災害時における要救助者の救出を目的として行いました。

訓練は3部構成で実施し、1部訓練は通常業務の活動イメージとして、本校において各種訓練を実施し、2部訓練は、夜間から朝にかけて災害現場への歩行移動を想定し、装備を背負いながら、富士マリンプールから本校までの約30kmを踏破し、学校到着後は、現場活動をイメージした3部訓練として、災害対応訓練を実施しました。担当として、現場意識の徹底が重要であると考えておりました。



苦しい
疲れた
もうやめた
では
人の命は
救えない
その先に待つ
要救助者 大切な人の
手を掴みにいけ
教務課 山下

初任科第95期 第2回野外訓練の概要

- 実施日時
令和6年8月1日(木) 9:00 ~
8月2日(金) 7:30
- 訓練内容・場所
第1部 消防学校訓練施設で各種訓練
第2部 夜間強歩訓練
(富士マリンプール~消防学校:約30km)
第3部 現場想定 of 災害対応訓練
- 日程表
1日(木)
6:15 起床
6:30 日朝点呼・早朝体育(資器材準備)
7:30 朝食
8:20 日直寮直交代
9:00 校長訓示・各種訓練開始
14:20 各種訓練終了 夕食・入浴
16:30 消防学校出発(バス)
17:30 富士マリンプール到着
18:08 夜間強歩訓練開始
2日(金)
4:43 帰校
6:10 災害対応訓練開始
7:30 訓練終了



第1部 「各種訓練」



救助訓練



応用訓練



消防活動訓練



第2部 「夜間強歩訓練」

富士マリンプール

出発 18:08

3.02km

富士と港の見える公園

3.80km

田子の浦みなと公園

2.95km

入道樋門公園

2.70km

富士川緑地公園

2.50km

日の出公園

2.90km

新蒲原駅

3.70km

港北消防署庵原分署

2.50km

由比駅東公園

3.0km

薩埵峠駐車場

3.50km

消防学校

到着 4:43



第3部 「災害対応訓練」



(総代 久保学生 出発時の一言)

第2回野外訓練を目標に約2か月間、自分自身と向き合って日々、取り組んできたと思います。しかし、今日の訓練は決して簡単な通りではないと思います。その時に皆さんには『言葉』を大切にしてほしいです。

『一歩』『消防精神』『苦しい 疲れた もうやめたでは 人の命は救えない』他にもたくさんの言葉に出会ったと思います。

辛い時、苦しい時、仲間の一語でまた前に進めること。

最後まで諦めない、諦めさせない。『言葉』で仲間を繋ぐ。

95期全員で必ず任務を完了させる。

止まることなく少しずつ『一歩』を踏み出していきましょう。



学生には、この訓練は一つの現場である、消防士として当たり前とその災害に向き合い、当然に全員で任務を完了させる、リタイアなどありえないと日々伝えてきました。実災害となれば、いつ起きるのか分からない、しかしながらこの災害想定訓練は発災日が決まっている。相当の準備をし、備えろとも伝えてきました。

消防は個ではない、隊である。この言葉も学生には何度も伝えてきました。この訓練を通じ、更にその大切さ、必要性を感じたのではないのでしょうか。当たり前のことが疎かになり、最後まで指導を重ねた2日間となりました。

しかし、全員がまずはこの場に立ち、災害現場まで全員が完歩できたことは評価に値すると感じています。これまで、体力、気力の錬成に努め、全員が災害対応に向け、備えてきたから進むことができたのだと思います。そして、仲間と支え合い、手を取り合い、立ち向かえたからこそです。

我々消防士が活躍する時には、必ずその先に助けを待っている人がいる。そして当たり前前に助けに来てくれるだろうと待っている。

だからこそ、訓練に終わりは無い。この訓練で感じたものを心に刻みながら、決して止まらず、努力を続けてほしいと思います。

『絆』『新友 親友 心友』彼らは、この言葉を体感しているはずで。

仲間と共に、今後も精進してほしいと願います。

『苦しい 疲れた もうやめたでは 人の命は救えない』自分自身が大切にしている言葉であり、この言葉が全てだと考えます。今後の彼らの支えとなる言葉となるはずで。

教務課主査 山下 大輔 (駿東伊豆消防本部から派遣)



三沢校長から一言

8月21日は県民の日イベントとして、恒例の「消防学校訓練体験」を開催しました。初任科生が中心となって企画・運営、子どもたちの面倒をよくみてくれました。花火教室や放水訓練体験など内容は盛りだくさんで、消防車試乗体験では「緊急車両通過します！」マイクの声が弾んでいました。参加してくれた子どもたちが消防に興味を持つきっかけになってくれるといいですね。帰り際、何人かの保護者から「楽しかった、ありがとう！」との声も！ありがとうございます。また来年もお待ちしています。

「県民の日」が終わると22、23日は初任科生の夏休み。また、教官も全員が夏休みです。初任科生は修了まであと1か月、ラストスパートに向け、しっかりと英気を養ったことと思います。私も23日は休暇を取ったのですが、その日の夕方から喉の痛みと微熱が出て、翌週には新型コロナと診断されました。初任科生と教官及び職員には患者はいないので、消防学校以外のところで拾ってきたようです。前回、2年前に雇ったときには熱も痛みもなく、これでもコロナ？という感じでしたが、今回は痰は絡むし、熱はなかなか下がらないし、鼻水もひどくてとても嫌な感じでした。そういえば23日は妻に内緒でひとり焼肉ランチしました。バチが当たったかな？ただ、前は視線の端をなにやら黒いものが横切るという、自分ではコロナの後遺症と思っている症状が発生し、今でも続いています。今回はなにも残らず、ついでに前回の症状も消えてくれるといいのですが。まだまだコロナウイルスはその辺に転がっています。皆さんも油断せずマスクの着用を心がけましょう。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索